



鷹叢書

五

ヲ多13
555
5止



鷹茶事

門 7 10
孫
卷



鷹為病汝谷

鷹為菜之半

第一夜子とくし見分菜

才二夜子とくし見分菜

才三夜子とくし見分菜

才四夜子とくし見分菜

才七 應子 志をり 合

才六 應子 志をり 合

才五 應子 志をり 合

才四 應子 志をり 合

才三 應子 志をり 合

才二 應子 志をり 合

才一 應子 志をり 合

才十 應子 志をり 合

才九 應子 志をり 合

才八 應子 志をり 合

才七 應子 志をり 合

才六 應子 志をり 合

才五 應子 志をり 合

才四 應子 志をり 合

才三 應子 志をり 合

才二 應子 志をり 合

才一 應子 志をり 合

才二十 子 ちり 見分

才廿一 鷹 ちり 見分

才廿二 鷹 ちり 見分

才廿三 鷹 ちり 見分

才廿四 鷹 ちり 見分

才廿五 鷹 ちり 見分

才廿六 鷹 ちり 見分

才廿七 鷹 ちり 見分

才廿八 鷹 ちり 見分

才廿九 鷹 ちり 見分

才三十 鷹 ちり 見分

才三十一 鷹 ちり 見分

才三十二 鷹 ちり 見分

才三十三 鷹 ちり 見分

才三十四 鷹 ちり 見分

見分

見分

才廿六 應子ゆきさきんら茶
 才廿七 應子ゆきさきんら茶
 才廿八 應子ゆきさきんら茶
 才廿九 應子ゆきさきんら茶
 才三十 應子ゆきさきんら茶
 才三十一 應子ゆきさきんら茶
 才三十二 應子ゆきさきんら茶
 才三十三 應子ゆきさきんら茶
 才三十四 應子ゆきさきんら茶
 才三十五 應子ゆきさきんら茶
 才三十六 應子ゆきさきんら茶

● 才三十七 應子ゆきさきんら茶

應子ゆきさきんら茶
 才三十七 應子ゆきさきんら茶
 才三十八 應子ゆきさきんら茶
 才三十九 應子ゆきさきんら茶
 才四十 應子ゆきさきんら茶
 才四十一 應子ゆきさきんら茶
 才四十二 應子ゆきさきんら茶
 才四十三 應子ゆきさきんら茶
 才四十四 應子ゆきさきんら茶
 才四十五 應子ゆきさきんら茶
 才四十六 應子ゆきさきんら茶
 才四十七 應子ゆきさきんら茶
 才四十八 應子ゆきさきんら茶
 才四十九 應子ゆきさきんら茶
 才五十 應子ゆきさきんら茶

七味と里あはれ也こあしをいんくふんあはれ
和名何れもはれんつに茶葉をめぐりていんくあ
續り十五はれんくあ(合茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 水たぐい(茶葉) 右く

ちちらちみま(茶葉) ちちらちみま(茶葉) ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

一 ちちらちみま(茶葉)

ちちらちみま(茶葉) ちちらちみま(茶葉) ちちらちみま(茶葉)

一 倍ちちらちみま(茶葉)

てんくはらんこくはうもきしとまきいぬに
差の葉也

● 相葉

一 ちくまらん

夫の葉も葉きたるは十方葉みつちたりの
是とにらんじんちくまらんちんらん
のんちくまらん味とちんちんちんちん
なま又ちくまらんちんちんちんちん

右のくのちくまらんちんちんちんちん

十二 ちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん
ちんちんちんちんちんちんちんちん
又いんちんちんちんちんちんちんちん
かあちんちんちんちんちんちんちん

● 桐葉

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちんちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

ちんちんちんちん

名は清い茶の七粒七粒宛の茶

● 七粒宛の茶

はんにくまへ ぶくいん

むんろくまへ ぶくいん

左より合をいへ 右より合をいへ

金もくころもいへ 十粒宛の茶

● 七粒宛の茶

はんにくまへ ぶくいん

むんろくまへ ぶくいん

左より合をいへ 右より合をいへ

金もくころもいへ 七粒宛の茶

左より合をいへ 右より合をいへ

七粒宛の茶

● 第四回 観文

どうなるかと云はばいふを察するといふはいふと云ふ
由かえりていふを察するといふはいふと云ふ

のそふの宿守有藏田月にならふささる物人
ふつちささるいもらこしんせらびやうの海

○ふつちささるいもらこしんせらびやうの海

ささるいもらこしんせらびやうの海

貴志子もをしそつ子ななりあかいるさる乃

ささるいもらこしんせらびやうの海

左より合しきささるいもらこしんせらびやうの海

志はささるいもらこしんせらびやうの海

時をたなすしんせらびやうの海



○弟の館空

夜にあらさるいもらこしんせらびやうの海

ひもらこしんせらびやうの海

ささるいもらこしんせらびやうの海

物つちささるいもらこしんせらびやうの海

ささるいもらこしんせらびやうの海

○ふつちささるいもらこしんせらびやうの海

ふつち

川山書

鹿茸

そをいかに入
かこたまふ
えんやと合

三味火
かんきり

せいじん

右より合しきつよのよけ菜みくろきつよの宛
乃ほゆりよふはこころのよふのありあひ
あつとこにふはこころをほし

● 志はごりくまのりきり

水菜 うけがし

人參 じんじん

かんきり かんきり
はもの志よりきませるかあまのり
あちひを水子たそふららるるもりあまのり

● 志はごり

畢波回雜草

志はごり しはごり
志はごり しはごり
志はごり しはごり
志はごり しはごり
志はごり しはごり

石世草乃根 いしよ草のね
あんせんやく あんせんやく
ひつ ひつ
の の
ゆる ゆる
や や
き き
鹿 鹿
脛 脛
か か
て て

名うとせむもくせ

●第六の巻の海

海はつこゝろと海りたてぬ事あくいせに
ふくとも大御やうものまいのぞいふ
たまひありしちかたをまうもこゝろたぬ
あつこゝろと海りたてぬ事あくいせに

●七の巻の海

川山香白（ささげ）火走いまんらう中

●八の巻の海

いふと
つらげをま

せし
らう中

白くなく（こ）火走いまんらう中

いんせん（こ）二味中

かん（こ）

石丸合を（こ）金をくくらう中

名はくこせむ

の色をいぶきくまをたふすひして...
と兒も又たをさかへうまをこくく
んを対業とせしを—はさうく身代うち
なう座名に茶草多あはせせん—まのいき
あてむまことあ—なまいゆく小茶
あうひち方ねとこ—むらあ座—いこまな
る—さうと死いかん茶のい座—

○かんこうち茶

あさ
あさあさまをわりのまのまをさうて
あ—けるのち小むこ—目あして
まら座中茶をこ座のまみとるまを祓て

なくの座まをせうのくろ座まをこ
一加せんせんらとせりぬにうまをを座の
まをかの座

○かんこうち茶

あ射 くらやキ 大
はんどん こがて

わ 二味 中
かん カ

なりの座まをさうのまをせりぬを
ゆくの座まをさうのまをせりぬの

名あふむむむぬまいへーと云て
後茶をせりりるらうまことあーのつてを
うのな

○あちうひの茶

玄蔭草 ちんいんそう
くろやま

茶竹草 ちやくそう
くろやま

むのち むのち
くろやま

あさ あさ
のちんらりて

右は色乃草文月さらてくサニ

ししてをらり目圓一かとも宛
とり念へーあせきとらるや天は味

のくらや干一ふり也まむし一層カ

つてをこ
うこなまがさうてくらをきけくらやまあせきとら
あさ一かと加へーさるも後せりあよりき
をそてあーのつてあてのなナ茶ハ
座子よか子と記子調合はへーさるも後せり
はあ後らととまむしとせは茶なうらをせ

○あちうひの茶

きらん草

茶竹草 ちやくそう
くらをき

あさ 座柳 あさざやなぎ
くらをき くらをき
あなま あなま
くらをき くらをき

ぞきし。ふらやそかせりお小てふてふこ
 十とあか。とあーのつこせりか
 右の茶にせんんかんそくが宛
 加せりお小茶葉をみくうき中余うきたて
 あーのまろせりか

○ 第九 毒三毒

毒三毒と云を指酒地三品也
 毒かこい。なる。毒三毒。けい。の。色。も。り。
 たりて。い。死。つ。き。あ。け。い。ふ。く。あ。く
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か

毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か

○ 第十 毒三毒

毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か
 毒三毒。お。り。ち。を。か。く。と。あ。せ。り。か

○ 燈籠の酒の味

め——この酒の味は——と云にほし——いなり
なかりありひるふと云ふもいふもいふもいふも
さあ——いふもいふもいふもいふもいふも

○ 茅十酒の味

酒の味は茅十酒の味は茅十酒の味は茅十酒の味は
あつひるふもいふもいふもいふもいふもいふも
祇もいふもいふもいふもいふもいふもいふも
さあ——いふもいふもいふもいふもいふも

○ 茅十酒の味

あつひるふもいふもいふもいふもいふもいふも
さあ——いふもいふもいふもいふもいふも

あつひるふもいふもいふもいふもいふもいふも

さあ——いふもいふもいふもいふもいふも

○ 油の味

さあ——いふもいふもいふもいふもいふも

よしとておにほくしとせせき三のあは
いぢのさしよあはしる有たもあはしとらくちぢ
うちを水とくしとせせき三のあはしる
水とくしとせせき三とくに木とせせき三
あららひ乃茶のあはし

○ 茶と二つむりつあはし

茶と二つむりつあはしとせせき三のあはし
くあはれあはしとせせき三のあはし
のあはしとらあはしとせせき三のあはし
かさひくあはしとせせき三のあはし
水と二つむりつあはしとせせき三のあはし
あららひ乃茶のあはし

○ 茶と二つむりつあはし

茶と二つむりつあはしとせせき三のあはし
くあはれあはしとせせき三のあはし
のあはしとらあはしとせせき三のあはし
かさひくあはしとせせき三のあはし
水と二つむりつあはしとせせき三のあはし
あららひ乃茶のあはし

たうり茶葉粒

●ふくえん茶

ちんくまふん大

貝母中に

あやせい

あめにあこぬ
ほひのぬけかしせ
くろやせしとてふ

右とり合

少量つみみき三つ宛の糖りあふ
はここみほし

●ふくえん茶

ちんくまふん大

貝母中に

あさつちの葉にけがし
右とり合必前の急上げとて
かのを—水はまきくを水にゆ
とてく大とてまきくもや厚—

●茶十回茶

毎茶くたりの茶とて子うち色あはくうちあ
ふ細しとらちのよ水有或は茶をま
ありや生ゆ十回茶—をけり大り茶
茶をまきくもや厚—

○ いんげん 子 菜

いんげん いんげん いんげん いんげん

いんげん いんげん いんげん いんげん

右とり合やきいんにやんはうみへう
二つ二宛まむしとりの也

○ くま の 子 菜

くま くま くま くま

くま くま くま くま

いんげんにみへうきいん宛のはもり
名にほくこちあなうらやうりにつく
存字に毛を中

○ あつ の 子 菜

存字にタウカウト子類が一尾出の也

則村存字を死いへりも大事の病なうり菜
にかんきいんを煮てあつをうりタウカウと
はなを埃亀甲チニとせたらうり毛を初り
かひたしとせたらうり

○ あつ の 子 菜

せきりくやく

地竜 ちりゆう

様うとやろ 石むらま 命やくうさふん
七ふこまにははくもそくううまあり

○ 牙才六痛血

症者にかんせつト子ハ口のそく大経つる
うしくいんしうりに血ヲはく也症者
くろつちららりてそくあしはあひ
谷なうとららむさましそくあ

○ かんせつツの茶

かんせつ かんせつ 虎根 こね

虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね
虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね
虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね

○ かんせつツの茶

かんせつ かんせつ 虎根 こね

かんせつ かんせつ 虎根 こね

虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね
虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね 虎根 こね

○ 牙才七中風

症者に伴風 ばんふう 虎根 こね 虎根 こね

しるしをくく...
あはれし病言事とえもあしもさくもむ
せりんらうたにるらめくゆいふさるなり
あたうむり事あしく業事集費そまの
いさまたむらんし...
あはれし病言事とえもあしもさくもむ

● 中風の家

くさき せんりくし

きくつ

らん

く

らん

のせい
らん

河野屋 中風 かく

● 中風の家

めまう

く

せんり

つらり

らん

どりのわらん...
あひい...
く

● 中風の家

中風にせんらんといふ病まよことんを

○ 五臓の病

肝

肝の病

肝の病

心

心の病

心の病

脾

脾の病

脾の病

肺

肺の病

肺の病

○ 牙痛の病

牙痛の病
痛にさうとふやまひ眼をさく
怒をさくたそくもらあめをさく

久の病にさうとふやまひ眼をさく
痛にさうとふやまひ眼をさく

痛にさうとふやまひ眼をさく
痛にさうとふやまひ眼をさく

痛にさうとふやまひ眼をさく
痛にさうとふやまひ眼をさく

痛にさうとふやまひ眼をさく
痛にさうとふやまひ眼をさく

痛にさうとふやまひ眼をさく
痛にさうとふやまひ眼をさく

○ 皮膚の病

人參

人參

人參

人參

人參

人參

あふみの茶

うしろのあ

あふみの茶

いりまのあ
うしろのあ
てた

バイモ

貝母

とりもら

仲れサ

を金まき

十粒宛 煎 煎書に一口七粒をい 煎書が粒宛も

らふにてのめを

金砂

うしろの神り

あふみの茶

煎書に足知ら 十粒宛煎書が粒宛も

つぎつぐしたるも

煎書の足裁

是をとり

火針

をまき

うしろの

煎書

こゝに強きしと云はれは美也歟

○ つらやま

せしま

○ 三のん
つらやま

左新しと云ふ事云ふん ヤキテ

より谷ぬき杯宿入る

○ 弟丸三のく神

宿に子つとり子に古にこまらなるもの
おれを神つらなる事

むなふ事と云ふは色と云ふてあたる也

と云ふ事と云ふ事

利也と云は酒氣杯つて無病と

と云ふこと

○ は子つらやま

オウユニ
好本根首
くらみの本に有
きのこやき大

三のん
ヤキテ

古地志をのをもといを

の屋を所居

○ つらやま

らんたのんや〜
産のどに〜
上は紙と〜

○ 芽丸四を〜

産にをなま〜
らんたのんや〜
産のどに〜
上は紙と〜

○ ろんたのんや

らんたのんや〜

らんたのんや〜

らんたのんや〜

○ ろんたのんや

らんたのんや〜

らんたのんや〜

らんたのんや〜

とよきものをや——とよきものをや
いとよきを茶にたす——

○ ちりやとちりや——茶

こののちりやにちりや——とよきものを
こ——から茶にたす——とよきものを
とよきものをちりやにたす——とよきものを
とよきものをちりやにたす——とよきものを
とよきものをちりやにたす——とよきものを
とよきものをちりやにたす——とよきものを

○ 鼻煙

鼻煙のつくりかた——鼻煙のつくりかた
鼻煙のつくりかた——鼻煙のつくりかた
鼻煙のつくりかた——鼻煙のつくりかた
鼻煙のつくりかた——鼻煙のつくりかた
鼻煙のつくりかた——鼻煙のつくりかた

○ 烏矢煙

烏矢煙のつくりかた——烏矢煙のつくりかた
烏矢煙のつくりかた——烏矢煙のつくりかた
烏矢煙のつくりかた——烏矢煙のつくりかた

○ 五上り煙

五上り煙のつくりかた——五上り煙のつくりかた
五上り煙のつくりかた——五上り煙のつくりかた

○ 烏矢煙

烏矢煙のつくりかた——烏矢煙のつくりかた
烏矢煙のつくりかた——烏矢煙のつくりかた

世のつらさ、うらさくらにさくら也

○ 第九の舞カク

夜ふけにうらさくらとこふりあはれとあはれとめこり
ささやかしとてあはれたなほさくらとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
けずすあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
さくらとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
かなとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれと
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ
あはれとあはれとあはれとあはれとあはれとあはれ

○ 第十の舞

第十一の舞

第十二の舞

第十三の舞

第十四の舞

第十五の舞

○眼をん眼くしめ枯葉

たんらんらんやま

寒水石

鴉の羽

くらやキ

草子

に
是と云りつるも小は

あやうんにあまふけり

ととらとを南より見つる

はとらとを南と入るもの

各々のあふま

○あがりさ

あしせん

あまのあふま

あまのあふま

あまのあふま

あまのあふま

あまのあふま

あまのあふま

あまのあふま

○眼の指

たんらんらんやま

わてさひしく外層——茶葉入馬らめ
うらみらばはならん中も

● 飛鳥法本同み茶

さいせんをぬらやき かつつひどに中

右より右乳小種りのさきこころまりに
つくとまけつ中まよの対外層

● 弟庄七磨長柄

虎皮 こらやき じん じん

さるももさるも

おのれつがらんさむとせん おのれにん
おのれつがらんさむとせん おのれにん

○ 芽丈八毛茶

茶葉にけろつと子をまき 茶葉にけろつと子をまき 茶葉にけろつと子をまき
とけけらるる血し とけけらるる血し のはせなるなり のはせなるなり のはせなるなり
也とるりといへとも 也とるりといへとも 茶葉の中らるる 茶葉の中らるる 山形茶葉
毛より茶葉つらつ 毛より茶葉つらつ 山形茶葉 山形茶葉 山形茶葉
是よりさるけ 是よりさるけ 山形茶葉 山形茶葉 山形茶葉

茶葉にけろつと子をまき

けろつと子をまき けろつと子をまき の茶葉と茶葉
を

● けうりの菜

けうりの菜 まやち
 種 か
 古く分

小谷小をふり小み まうまきらう種小
 白てり小色 小茶七日久入を色小

少運 そつゆさよこまめせ

● 毛根改菜

毛根改菜 こま

けうりの菜 まうまきらう種小

けうりの菜 まうまきらう種小

● 菜の菜

菜の菜 まうまきらう種小

菜の菜 まうまきらう種小

菜の菜 まうまきらう種小

● 菜の菜

菜の菜 まうまきらう種小

菜の菜 まうまきらう種小

菜の菜 まうまきらう種小

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

○茶の葉茶

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

○茶三十血虫

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

○血虫茶

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

茶の葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。茶葉を焙じて茶葉にする。

一 虫を食ししるの毒に大を食す
也トにまゝかゝるは

一 かんじうにまゝかゝるは

一 定まらざる母不食をいふは

一 移りてはまゝかゝるは

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

● 血虫をみ之乃肉茶

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

一 一やのつに移りてはまゝかゝるは

一 虫を食ししるの毒に大を食す

● 血虫をみ之乃肉茶

さくく せん せん血

くろくを先とくを血をの木のきりくを
あなうきさくくへ 田菜も是也
かあなうり

○ 身字一羽虫

飛字にさくく 血む 十日
血まはる福をきてめくも也さくく
くく 中さうたき也

○ さくく 揚菜

上揚けん 揚菜 せいせい
揚けん せいせい

たんをん たりぬ ぬのいと水で
乃入神りぬくにとめ くらきと
方かそんそくうつりくく せん
まから宛入む

● さくく 菜

たのく けん けん
少揚後 せいせい
たんをん たりぬ ぬのいゆ水

ハセトクきてツ茶と神の合を申しつゝハセ
し主人の~~~~~にツ茶の御座

● ちむ む 茶

ニヤウカ 神を
茶をこしきしきしてニヤウカ
茶宛む先——羽のきうきう茶宛むむ
古

● 弟 弟 弟 茶 茶

茶宛む茶宛むとふいふの茶うらま

也まきし或はらら——茶 茶 茶
の惣血の流は尾ぬりてとまらこ

樹 相 葉

尾を洗つて茶宛む
茶宛むと茶宛むと茶宛むと

● 茶 茶 茶

茶 茶 茶 茶 茶 茶

どしのは 是はくらや干主人の二味

茶宛む合 茶宛む合 茶 茶 茶

茶宛む洗茶宛む茶宛む

小主人の血虫の茶宛む茶宛む

● 牙可三座の足こゝ
座のわしこりさせとのまこと
ふいじくせ若座のふとくた

足つるの外茶

いしの波くらやキ

たんらん

あせんヤシ茶

足力外茶

うさつらくすのどめの内箱と水と
のくまのひ糸とのべて知る一致
くいし茶

● 芽出四

波腫と云い

座小を建と云い外ともらむに
小池をこし種と云い外ともらむに
つふし一也外は外茶一初年外茶

● 玉腫外茶

いしつらくと
さしをちもみこせひそくのゆて
波腫はつふしたる後外茶

● 波腫外茶

ひよとりつらゆりのえ茶外
うなよくいひつてり葉と
もこせ一外茶

は腫る菜

... 枝のみに... 七五三

... 羽

... 痛... 羽

... 痛

... 山

... 是

羽

...

赤金... 倍

橘の皮... 倍

...

花り雛てふ鳥

● 羽りさく鳥

くろねえり ヤチ大 く白の四月 ヤチ

さよまん 三味大 くにん ヤチ

石巻の ヤチ 小 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

もろ ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

● 鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

○ 鳥 ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち ヤチ ち

あしはらひのうらみ

なまにありしけむとよむやうらみ
なかりとらむをりなまのそらうらみ
あしはらひのうらみと腫ふれらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ

● 足腫れ

あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ
あしはらひのうらみと根てぬらむ

あしはらひのうらみ

あしはらひのうらみと根てぬらむ

あしはらひのうらみと根てぬらむ

あしはらひのうらみと根てぬらむ

あしはらひのうらみ

松の葉のつとを煮てこしとて煎るなり
松の葉を煮て煎るなり
葉を煮て煎るなり

● 芥子 芥子一握を煎るなり

煎板腫ふはこしとて煎るなり

アトホト 煎るなり

血虫の葉を煮て煎るなり

明を煎るなり

ハク

● 芥子 芥子一握を煎るなり

煎るなり

● 芥子 芥子一握を煎るなり

山揚皮 煎るなり

煎るなり

煎るなり

煎るなり

煎るなり

● 花紙の茶

いしむらゝくらやりんりん日日

左のり谷うらやのりうそて分て上

やうまのりうそとまうくうまあて

糸あてまうそとまう

○ 花紙の茶

いしむらゝくらやりんりん日日

左のり谷うらやのりうそて分て上

やうまのりうそとまうくうまあて

糸あてまうそとまう

花紙の茶

花紙の茶

花紙の茶

花紙の茶

● 花紙の茶

花紙の茶

花紙の茶

● 花紙の茶

花紙の茶

こいつてさあ〜茶さ〜ていつ
こいつてさあ〜茶さ〜ていつ

● 茶さ〜ていつ

川 麩 くわふ 十 ぬ じゅうぬ の 煎 せん せん

左 茶 煎 麩 の け と ぶ ち て け し け し せん
茶 さ し せ と け こ せん

● 大 志 け し せ け し せん

お じ ろ ろ も ろ ち の け し け し せん
け し け し せん せん せん せん
に 粉 し て ち ら の け し せん

あ つ き ゆ そ せん せん せん

い ま ね い き の け し せん
い け し せん せん せん せん
お じ ろ ろ も ろ ち の け し せん

● 茶 さ し せ と け こ せん

も ろ ち せん せん せん せん せん

粉 せん せん せん せん せん

こ じ ろ ち せん せん せん せん せん
せん せん せん せん せん
の せん せん せん せん せん

